

笹川邸から風景異化する 「まなざしのデザインゼミ2018」

主催：味方アートプロジェクト実行委員会



政策発表&振り返り会 (Sea Point NIIGATA)



1	会議の初め半として外国人を積極的に受け入れ
2	議案採決の手法として「水産部・コミニ」を模倣
3	稼働率の低いリゾート地をマインドフルネススポットとして再開発・外国人を誘致
4	再生可能なエネルギーで国民の電力需要をまかない、電気を輸出品目に
5	「画」大隈邸への転居「多」の活用した農業振興の展開

地域文化資源と向き合い、創造的に課題解決ができる人材を育成

国の重要文化財笹川家住宅(笹川邸)は年々来館者数が落ち込み、現在では年間5,000人とどまっている。観光資源であるはずが、存在が当たり前すぎて、地域住民の関心もとても低く活用まで至っていない。夙合戦にならんで地域のアイデンティティを司るシンボルとして次世代に継承していく必要がある。また、味方地区内において、いつも同じ人だけが事業にかかわる傾向が見られ、新たな人材の発掘・育成が必要と考えた。

何もないのではなく、何も見ようとしていない自分に気付くことを体験しながら、リサーチの中で地域文化資源と向き合い、創造的に課題解決ができる人材の育成を目的とした。「何もない」という思い込みを「何でもある」へスイッチさせる手法として、ハナムラチカヒロ氏(ランドスケープアーティスト/研究者/俳優)が持つ理論は有効的であり、南区にとって一番必要な

考え方である。

今回は、テーマを「データNIIGATA『新潟市が独立共和国になったら』』として設定。ネット環境によってどこでも働け、どこでも暮らしていけるであろう未来を見つめてみると、もはや国に所属する意義すら覆される時代がやってくるかもしれない。新潟市が世界の中でどのような位置づけにあるのか、データをもとに調査・分析し、果敢に自分たちで政策を立てることを試みた。固定観念に縛られていたことに気づかされ、自由なまなざしを得たことで、新潟市の内側からではなく地球規模で俯瞰しながら見る目も養われた。また、ゼミ生だけでなく発表や講演会を聞きに来た人たちにもメッセージが届いたと思う。まちづくりに携わる公務員やNPO職員に関わってもらったことは、第一歩としてよかった。政策提言の内容を県議会にも興味を持っていただけたのも成果のひとつと言えるだろう。

- 6月2日(土) ハナムラチカヒロ「まなざしのデザイン」講演会 (T-Base)
- 6月3日(日)~9月29日(土) まなざしのデザインゼミ全9回 (新潟市市民活動支援センター)
- 9月30日(日) 政策発表&振り返り会 (Sea Point NIIGATA)